

シリーズ掲載(にちなん町民大学講演「にちなんの森林(もり)から地球を動かす」より)

NPOの活動のひとつとして、平成24年4月28日、にちなん町民大学において講演する機会をいただきました。

地球環境に対する森林の持つ力、資源の乏しい我が国にとっての森林資源、その森林資源を活かすことが、人口流出した中山間地の再生に寄与するもの……といった内容で講演する(発行時には「した」)ものです。これらを、今後5回程度のシリーズにわたり、皆様にお届けしたいと思います。

全体の講演概要(予定)

地球温暖化が多くの問題を投げかけてきている。EUでは「温度が2度あがると25億人が食糧危機に陥る」と言っている。ある報道で「50年後、100年後にどんな地球を残せるか。それは、今生きている私たちにかかっている」とも。

資源から見れば「地球が300万年かけて作った石油は今私たちは1年で消費している」とも。

日本では石油をはじめ多くの資源が海外に頼っている。人口減少時代に、経済成長がこれまでと変わってくる時代に入った日本では、手の届くところにある資源を、それぞれの地域で、利活用する産業を興していく必要がある。

日南町には、その大きな資源として、先人の残された森林資源が、伐採を待っている。

最終的には燃焼による電気エネルギーとなるが、それ以外にも多くの利用ができる。

その方策を総合的な体系にすることで、地域の幅広い産業構造が出来上がる。

資源を製品化し市場に出すことで「外貨」をこの地域に入れ、域内では幅広い産業構築による雇用が増え、人口の流入・定着があり、小売り業まで経済波及があり、地内で経済が動くようになる。

「森林・林業の世界に入って」

私は2年前、鳥取県立農業大学校に入学し、そこで初めて農業に携わって、農業の厳しさを教わり、心身ともに鍛えられ、充実した2年間を送ることができました。

みなさんもユニークな学生と先生方に囲まれた楽しい農大生活を送ってみませんか？

さて、そんな私が農業とは関係のない林業にかかわるフォレストアカデミージャパンに就職したかという、農大に入った理由があてはまります。農大では小型車両系やフォークリフトなど、いろいろな資格が取れ、就職に有利かなと思って農大に入学しました。

農業ではなく、その様々な資格を活かせる仕事に就きたいと思っていたところ、フォレストアカデミージャパンのお話を聞きました。

四月からこの仕事に携わる中で日々関心が高まり、興味がわいて自己の研鑽を深めております。まだまだ林業に対して知識不足ではありますが、日本の貴重な資源を守るために日々精進し、将来は日本の林業を支える柱になりたいものと意識が高まっています。



(NPO法人フォレストアカデミージャパン新規採用職員)
森尾太久朗

「単板積層材製造工場の地域経済に及ぼす効果」調査□

公立鳥取環境大学、地域イノベーション研究センター(旧鳥取地域連携センター:TORC)にて、単板積層材製造工場立地によって、地域経済に及ぼす効果を調査研究していただくことになりました。

その効果は金額で示されることとなりますが、町単位でなく全県下への効果という形であらわされます。

また、数字に表せない効果や、第三次的、第四次的な効果について、コメントで表すこととして進められています。

調査研究を進めるにあたって、地元サイドではプロジェクト会議を設置し、情報・資料の収集などに協力することとしています。

プロジェクト会議の中では、「オロチ効果で、材価が安定してきた」「林地作業が増加し、機械化によって雇用が広がる、雇用に際し、農業もやりたいので農地の確保も」「機械作業の練習としての農地整備などもやることもある」などの意見も出ていました。